

新エネルギー産業推進室の事業・取組報告

○報告事項

- ①【資料2】あきた新エネルギーカレッジ事業実施報告について
- ②【資料3】先進地調査について
- ②【資料4】洋上風力発電、データセンター関連事業者などとの協定等の締結について
- ③【資料5】GOWSにおける市主催イベントの事業報告について
- ④【資料6】再エネを活用した産業・観光振興セミナーについて
- ⑤【資料7】GX戦略地域への応募について
- ⑥【資料8】あきたREハイスクールEXPOの開催について

あきた新エネルギーカレッジ 事業実施報告書

1 開催概要

- (1) 目的：本市に導入された再生可能エネルギー関連施設の見学や関係企業の社員との意見交換等により、再エネ関連産業に対する意識の醸成を図り、将来の進路選択につなげる
- (2) 日時：令和7年8月27日から同月29日まで
- (3) 参加者：大学生8名（1名体調不良により欠席）
（内訳）
- | | |
|---------------------------|------------|
| ・秋田大学 国際資源学部 | 5名 |
| ・秋田工業高等専門学校 電気情報工学コース理工学部 | 1名（初日のみ参加） |
| ・ノースアジア大学 経済学部 | 1名 |
| ・山形大学 地域教育文化学部 | 1名 |
- (4) その他：本事業は、秋田洋上風力発電株式会社様からの寄附金を活用した事業である。

2 報告概要

- (1) 昨年度のアンケート結果を踏まえ、27日(午後)、28日・29日（終日）の行程で実施した。
- (2) 学生が主体的に取り組むとともに、学生間のコミュニケーションの活性化と今後の関係性の構築を図るため、今年度より「グループワーク」を実施し、最終日に発表会を開催した。
- (3) グループワークのテーマは、幅広い分野まで議論が可能となるものを設定した。また、本テーマを踏まえた講義となるよう、各講師と調整を行った。

【グループワークテーマ】
～『再エネ×秋田市』～
秋田市ならではの再エネを活用した地域活性化策を考えよう！

- (4) カリキュラムの設定については、昨年度の流れを踏襲しつつ、学生の体験時間を多く確保する内容とした。
- (5) アンケートの結果、カレッジの講義内容やボリューム等に肯定的な意見があったほか、今年度より実施したグループワークにおいても肯定的な意見が多くあった。

3 全体行程

8月27日（1日目）

時間	内容	講師	場所
12:30 ～	学生集合	—	秋田駅
13:00 ～ 13:20	オリエンテーション	新エネルギー産業推進室	セリオン会議室 「イベントホール」
13:20 ～ 13:30	グループワーク進め方	秋田洋上風力発電(株) 様	
13:30 ～ 14:00	秋田港洋上風力発電所について	秋田洋上風力発電(株) 様	
14:00 ～ 14:30	洋上風力発電を活用した 地域活性化	秋田洋上風力発電(株) 様	
14:40 ～ 15:50	洋上風力発電所におけるO&M	丸紅洋上風力開発(株) 能代運転管理事務所	
16:00 ～ 16:15	洋上風力発電所見学	秋田洋上風力発電(株) 様	飯島サンセットパーク
16:45 ～	学生解散	—	秋田駅

8月28日（2日目）

時間	内容	講師	場所
9:30 ～	学生集合	—	秋田駅
10:00 ～ 11:30	地元企業によるバイオマス発電	ユナイテッド・リニューアブル・エナジー(株) 様	同所発電所内
12:00 ～ 13:00	昼食	—	セリオン周辺
13:15 ～ 13:45	再生可能エネルギーの必要性と拡大 に向けた取組みについて	東北電力(株)秋田支店 様	風力トレーニング センター 「秋田塾」
13:45 ～ 15:00	市内で行われる人材育成	東北電力RENESES(株) 様	
15:15 ～ 16:30	グループワーク作業	—	
17:00 ～	学生解散	—	秋田駅

8月29日（3日目）

時間	内容	講師	場所
9:30 ～	学生集合	—	秋田駅
10:00 ～ 10:45	地元企業による風力メンテナンス	(株)ホサカ 様	同所事業所内
11:00 ～ 11:45	地元企業による陸上風力発電事業	(株)ウェンティジャパン 様	秋田潟上W F
12:00 ～ 13:00	昼食	—	秋田市役所周辺
13:00 ～ 15:00	グループワーク作業	—	秋田市役所内 「第2委員会室」
15:00 ～ 16:00	発表会	—	
16:00 ～ 16:30	修了式	—	
17:00 ～	学生解散	—	秋田駅

4 講義内容

(1) 27日(水) 講義

①オリエンテーション

- ・新出担当部長あいさつ
- ・職員紹介
- ・行程・注意点確認
- ・秋田市のエネルギー施策



②「グループワークの進め方」13:20~14:00

(講師) 秋田洋上風力発電(株) 代表取締役 井上 聡一 様

(内容)

- ・グループワークの進め方を説明するとともに、議論してもらうテーマについて説明を行っていただいた。



グループワークのテーマ

～『再エネ×秋田市』～
秋田市ならではの再エネを活用した地域活性化策を考えよう！

PRESENTED BY
秋田洋上風力発電 株式会社
Akita Offshore Wind Power Generation Co., Ltd.

③「秋田港洋上風力発電所について」 13:30~14:00

④「洋上風力発電を活用した地域活性化」14:00~14:30

(講師) 秋田洋上風力発電(株) 代表取締役社長 井上 聡一 様

(内容)

- ・秋田港洋上風力発電所の事業概要について座学形式での講義をしていただいた。
- ・また、グループワークのテーマに沿って、同社が行う地域活性化策について講義をしていただいた

⑤「洋上風力発電事業における「O&M」」14:40 ~ 15:50

(講師) 丸紅洋上風力開発(株) 能代運転管理事務所 所長補佐 高梨 弘輝 様

(内容)

- ・洋上風車メンテナンスの状況について説明を受けた。
- ・秋田県南部沖の浮体式洋上風力事業に関する説明をしていただいた。
- ・フルハーネスの着用体験もあり、希望者2名が着用体験をした。

⑥「洋上風力発電所見学」16:00～16:15

(講師) 秋田洋上風力発電(株) 代表取締役社長 井上 聡一 様

(内容)

- ・飯島サンセットパークより、実際の洋上風力発電所の見学を実施した。



(2) 28日(木) 講義

①「地元企業によるバイオマス発電」10:00~11:30

(講師) ユナイテッドリニューアブルエナジー(株) 渡辺 修 様

(内容)

- ・同社のバイオマス発電の事業概要について座学で説明を受けた。
- ・実際に構内を見学し、木質チップや発電機を間近で見学した。



②「再生可能エネルギーの必要性と拡大に向けた取組みについて」

13:15~13:45

(講師) 東北電力(株)秋田支店 地域共創本部 主査 鳥井 修 様

(内容)

- ・同社がこれまで取り組んできた電力事業のほか、再生可能エネルギー導入拡大に向けた取組について座学形式にて講義いただいた。
- ・また、グループワークのテーマに沿って同社が行う再エネ電力の地産地消に向けた取組について紹介いただいた。



③「地元で行う「人材育成」」 14:45 ～ 15:45

(講師) 東北電力リニューアブルエナジー・サービス(株)

常務取締役 技術部長 大原 智成 様

技術部担当課長 高橋 浩気 様

(内容)

- ・東北電力リニューアブルエナジーが取り組む人材育成とその意義について、座学を実施した。(10分程度)
- ・その後、全員(2名は見学のみ)によるフルハーネスの着用と高所作業での安全な体位の作り方を施設内のはしご設備を活用し体験した。



④「グループワーク作業①」 15:15 ～ 16:30

(アドバイザー) 東北電力リニューアブルエナジー・サービス(株)

常務取締役 技術部長 大原 智成 様

技術部担当課長 高橋 浩気 様

(内容)

- ・全行程をとおり、初めてのグループワーク作業であったが、各班で活発な意見交換が行われていた。
- ・各班が提案内容の方向性を決定し、最終日の作業に向け準備を進めていた。
- ・アドバイザーからは、グループワークの進め方や学生のアイディアに対してのアドバイスをいただいた。



(2) 29日(金)

ア 講義

①「地元企業による風力メンテナンス」10:00~11:00

(講師) (株)ホサカ 代表取締役 保坂 省吾 様

(内容)

- ・ 同社が行っているメンテナンス事業について説明を受けた。
- ・ タダノ社の電動クレーンについても手配いただき、国内最先端の低炭素重機の見学を行った。
- ・ 現場で使用するクレーン（スカイバケット）への乗車体験を行い、地上40メートルの高さを経験した。



②「地元企業による陸上風力発電事業」11:15~11:45

(講師) ウェンティジャパン(株) 梶原 将 様

(内容)

- ・ 秋田市飯島に所在する陸上風車にて事業の概要の説明を受けた。
- ・ 地上に置いているブレードに触れるなど発電設備を間近に見学した。



イ グループワーク

①「グループワーク作業②」13:30~15:00

(アドバイザー) 秋田洋上風力発電(株) 代表取締役 井上 聡一 様

(内容)

- ・ A班は「再エネツーリズム」をテーマに模造紙とA4用紙をそれぞれ1枚使用した資料を作成した。
- ・ B班は「再エネまるごと体験イベント」をテーマにパワーポイントで資料を作成したほか、ホワイトボードを活用し資料を作成した。



②「グループワーク発表会」15:00~16:00

(講評者) ・ 秋田洋上風力発電(株) 代表取締役 井上 聡一 様

・ 秋田市再生可能エネルギー推進検討委員会 委員長 齊藤 永吉 様

・ 秋田市新エネルギー産業推進担当部長 新出 康史

(内容)

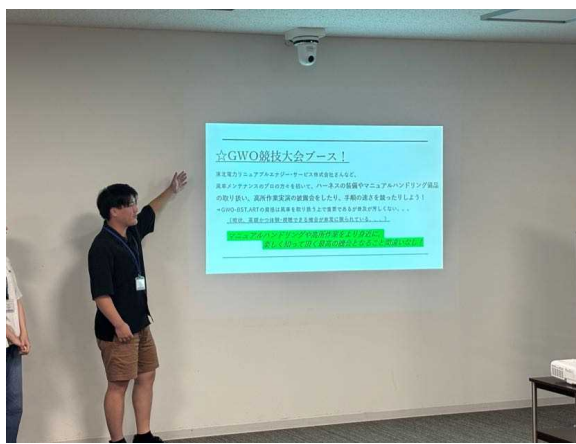
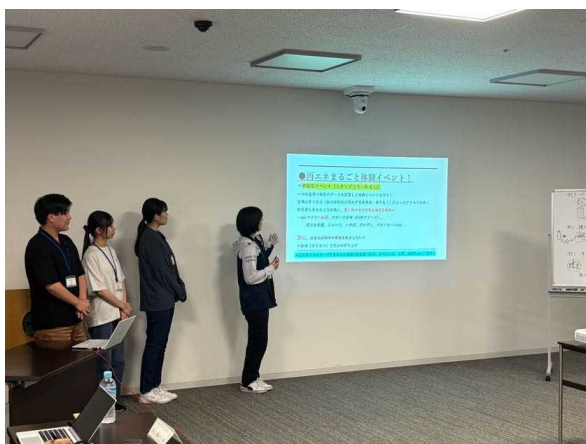
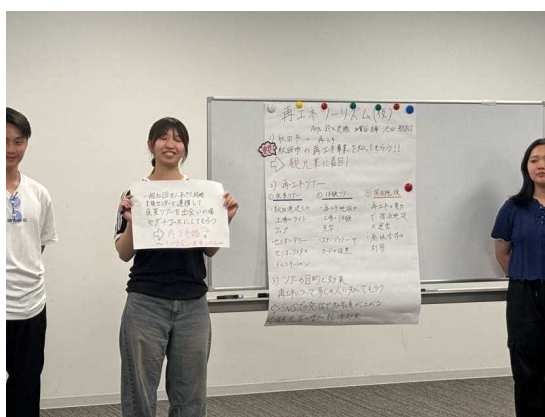
- ・ 1班あたり10分程度で発表を行い、各講評者より講評をいただいた。
- ・ 全班の発表終了後、井上社長より全体講評をいただいた。

【A班の発表概要】

- ・ 再エネを「知ってもらおう」という観点から「再エネツアー」の実施が提案された。
- ・ 具体的には、「①再エネ施設をライトアップする夜景ツアー」「②再エネ施設の見学やスタンプラリー」「③再エネ電力を活用した宿泊施設の建設」が提案された。
- ・ また、夜景ツアーを出会いの場として活用する「婚活イベント（再エネ婚）の開催」といったアイデアが出た。

【B班の発表概要】

- ・ 人流の創出という観点から「再エネイベントの実施」が提案された。
- ・ 具体的には、1つの会場内に「VR体験ブース」「ペーパークラフトや工作を実施するブース」「タービンなどの展示ブース」「GWO競技ブース」のほか、野外には高所作業車などを活用した乗車体験ブースを設置することが提案された。



ウ 修了式

- ・秋田市長あいさつ
- ・修了証書授与
- ・記念撮影



5 アンケート結果

【設問1】 参加のきっかけ ※複数回答可

選択肢	回答数
・再エネに興味があった	4
・卒論・研究のテーマに関連があった	1
・将来の進路の選択にしたかった	5
その他	4
・ 招待いただいた	(1)
・ 去年テレビでエネルギーカレッジを見て 行きたいと感じたため	(1)
・ 企業さんに説明していただけると聞いて	(1)
・ グループワークに興味があった	(1)

【設問2】 カレッジを知ったきっかけ ※複数回答可

選択肢	回答数
・ ホームページ	1
・ 広報あきた	2
・ 学校の掲示板	－
・ 先生の紹介	3
・ 知人の紹介	1
・ 学校のポータルサイト	1
・ キャリピタあきた	－
・ あきエコどんどんプロジェクト	－
その他	1
・ 市役所からの連絡	(1)

【設問3】 講義全体のボリューム

選択肢	回答数
・ 多かった	2
・ やや多かった	－
・ ちょうどいい	5
・ やや少なかった	－
・ 少なかった	－

【設問4】 講義全体の満足度

選択肢	回答数
・ 満足	7
・ やや満足	-
・ 普通	-
・ やや不満	-
・ 不満	-

【設問5】 各講義の満足度

(1日目)

①秋田港洋上風力発電所について
洋上風力発電を活用した地域活性化

満足	7
やや満足	-
普通	-
やや不満	-
不満	-

②洋上風力発電所におけるO&M

満足	7
やや満足	-
普通	-
やや不満	-
不満	-

(2日目) ※2日目欠席した学生がいるため合計値が一致しない

①地元企業によるバイオマス発電

満足	6
やや満足	-
普通	-
やや不満	-
不満	-

②再生可能エネルギーの必要性和拡大に向けた取組みについて

満足	5
やや満足	-
普通	1
やや不満	-
不満	-

③地元で行う「人材育成」

満足	5
やや満足	-
普通	1
やや不満	-
不満	-

(3日目)

①地元企業による風力メンテナンス

満足	7
やや満足	-
普通	-
やや不満	-
不満	-

②地元企業による陸上風力発電事業

満足	7
やや満足	-
普通	-
やや不満	-
不満	-

(グループワークについて)

①満足度

満足	6
やや満足	1
普通	-
やや不満	-
不満	-

②難しさ

易しい	-
やや易しい	2
普通	1
やや難しい	3
難しい	1

【設問6】 次回、学習したい分野や現在、関心がある分野を教えてください

※複数回答可

〈再エネ発電関係〉

選択肢	回答数
洋上風力発電	5
水力発電	2
バイオマス発電	1
メガソーラー（太陽光）発電	2
廃棄物発電	2
その他	1
地熱発電	(1)

〈再生可能エネルギーに関連する技術〉

選択肢	回答数
メンテナンス事業	2
水素・アンモニア・合成燃料	4
ドローン操作	2
その他	-

〈その他関連技術〉

選択肢	回答数
CCS・CCUS	3
太陽光パネルリサイクル技術	4
風車部材リサイクル技術	3
その他	3
風車内の設備	(1)
秋田市のエネルギー施策面	(1)
金属（レアメタル）リサイクル技術	(1)

【設問7】 参加しやすい日数および時間帯を教えてください

①日数

選択肢	回答数
1日	－
2日	3
3日	3
4日	1
5日以上	－

②時間帯

選択肢	回答数
終日（午前と午後）	6
午前のみ	－
午後のみ	1

【設問8】 その他、ご意見・ご要望・ご感想などをお聞かせください。

- ・グループワークの時間をもう少し長くにとってほしかった。
- ・再生可能エネルギーへの興味がさらに深まる非常に有益なカレッジでした。
- ・楽しかったです。本当にありがとうございました。
- ・参加者の皆や事業者の方々とコミュニケーションを取ることができる場がとても多くて楽しかったです。事業者の方々や現場の方、専門職の方々の意見を聞ける機会はとても貴重なのでとても満足です。
- ・文系、理系両方の観点を用意、またはどちらかに絞るなどしてもいいかもしれないと思います。
- ・カレッジを開催・運営していただいた講師や職員の方々、3日間ありがとうございました。充実した3日間でした。
- ・普通ではできない経験を多くさせていただいて、学びの多い充実した3日間でした。本当にありがとうございました。グループワークを通してたくさん意見交換ができたのも非常に良かったです。

以上

先進地調査について

【J F Eエンジニアリング株式会社】

1 日 時

令和7年9月17日（水） 14：30～16：30

2 場 所

J F Eエンジニアリング株式会社 笠岡モノパイル製作所

3 参加者

J F Eエンジニアリング株式会社

・洋上風力P Jチーム 理事 笠岡モノパイル製作所長 上野 秀治

4 訪問者

(秋田市)

- ・秋田市再生可能エネルギー推進検討委員会 委員長 斉藤 永吉
- ・秋田市再生可能エネルギー推進検討委員会 委員 遠田 幸生
- ・新エネルギー産業推進室 参 事 藤原 守
- ・新エネルギー産業推進室 主 事 佐々木 涼太

5 意見交換および視察

【意見交換会の概要について】

- ・笠岡モノパイル製作所は、J F Eエンジニアリングで培った技術力とJ F Eスチールの大単重鋼板を活かした、国内初のモノパイル製作工場として2024年4月に岡山県笠岡市に誕生した。
- ・本製作所は、現在国内で唯一のモノパイル製作所となっている。
- ・厚板の溶接などの技術や海洋構造物に対する知見がもともとあったため、こうした技術を応用し、現在の工場を運用している。
- ・直径12m、板厚130mm、長さ100m程度、重量約2,500t／基のモノパイルの製造が可能。また、年間生産能力として、10万t規模のモノパイルを製造できる能力を持つ見込みである（週に1本製作するペース）。
- ・モノパイルの輸送方法としては、工場の近くに出荷バースがあるため、工場で組み立てた90m近くあるモノパイルをそのまま船で運ぶ予定である。
- ・第1ラウンド向けに現在の工場を作ったものの、工期の遅れなどがあり、いまだ発注はない状態である。現在は、洋上風力発電関連の今後の国内案件を視野に入れ、技術者を育成している。
- ・モノパイル自体は水深や地質によって全て異なった作りとなっている。また、ヨーロッパに比べると地震が多い分、太く設計されているためコストが高くなる。
- ・モノパイルとタワーを接続する方法については、以下の3つに分類される。

○グラウト式接続

概要：モノパイルの上にT Pをかぶせ、隙間に特殊な高強度セメント（グラウト材）を充填して固定する方式。

特徴：初期の洋上風力で多用。施工が比較的容易だが、経年でグラウトのずれや劣化が課題になることもある。

○ボルト式接続

概要：フランジ（輪状の接合部）を設け、高力ボルトでモノパイルとT P（またはタワー）を直接締結する方式。

特徴：近年主流。メンテナンス性や強度管理がしやすいが地震に弱い。
TPがある場合と無い場合の両方がある。

○TPレス（トランジションピースレス）

概要：従来あったTPを省略し、モノパイルに直接タワーを接続する方式。

特徴：部材点数削減、施工コスト低減、設計の合理化につながる。

ただし施工精度の要求が高まる。

【施設見学の概要について】

- ・本施設内では以下の9つの工程でモノパイルを製作している。
 - ①開先加工
極厚材の開先加工を高精度・高速で機械加工する。
 - ②板継
極厚材を専用装置で溶接熱歪を制御しながらつなぎ合わせる。
 - ③曲げ
ベンディングローラーで平板をパイプ状に巻き上げる。
 - ④単管溶接
ベンディングローラーでつなぎ合わせた箇所を溶接にて一体化、単管を完成させる。
 - ⑤中管溶接
単管同士を周長溶接によりつなぎ合わせ、中管を完成させる。
 - ⑥長管溶接
中管同士を周長溶接によりつなぎ合わせ、モノパイル製品長さとする。
 - ⑦塗装
空調設備により温湿度をコントロールしながら高品質な塗装を施工する。
 - ⑧保管
完成した製品を出荷に備えて敷地内に保管する。
 - ⑨出荷
多軸台車で出荷バースまで製品運搬し、輸送船に載せ換えて出荷する。
- ・ベンディングローラーはイタリア製の最新機器を導入しており、扇形の板を直径10mほどのリング状に巻き上げることが可能。
- ・このようにしてできたリング状の板を数個溶接して組み合わせることでモノパイルを製作している。
- ・モノパイル製作の過程では、小物部品を扱う部分がないため、地場企業の参入が難しいとのこと。

6 所感

- ・自動溶接機や大型曲げ機など、欧州最新鋭設備が稼働している様子を間近で確認できたほか、直径10m前後の巨大なモノパイルを溶接しているところを見学でき、そのスケール感に圧倒された。
- ・施設見学を通じて、実際にモノパイルが製造され、技術者の育成も行われている実状を確認することができた。今後の大型洋上風力発電プロジェクトに対応可能な準備が着実に整っていることがとても印象的であった。
- ・本施設は、今後、モノパイルの量産化体制を目指していく中で、日本国内での洋上風力基礎の国産化・安定供給拠点として重要な位置づけであると実感した。



○意見交換会の様子



○施設見学の様子
※施設内撮影禁止
※一部撮影可能



【ジャパンマリンユナイテッド株式会社】

1 日 時

令和7年9月18日（木） 13:00～14:50

2 場 所

ジャパンマリンユナイテッド株式会社呉事務所

3 参加者

ジャパンマリンユナイテッド株式会社

- ・ 呉事務所 管理部長兼人材育成グループ長 西本 直樹
- ・ 呉事務所 管理部営業グループグループ長 坂詰 大樹
- ・ 営業本部海洋・新エネルギー営業部
洋上風力・新エネルギーグループ 主査 渡邊 和樹

4 訪問者

（秋田市）

- ・ 秋田市再生可能エネルギー推進検討委員会 委員長 斉藤 永吉
- ・ 秋田市再生可能エネルギー推進検討委員会 委員 遠田 幸生
- ・ 新エネルギー産業推進室 参 事 藤原 守
- ・ 新エネルギー産業推進室 主 事 佐々木 涼太

5 意見交換・施設見学

【意見交換会の概要について】

- ・ ジャパンマリンユナイテッド株式会社の事業内容として、商船事業、艦船事業、海洋・エンジニアリング事業、ライフサイクル事業の4つに分かれており、その中の、海洋・エンジニアリング事業において洋上風力事業（洋上風力向け作業船や洋上風車浮体）を行っている。
- ・ G I 基金フェーズ2の実証事業が、2029年秋の運転開始を予定しているため、それに合わせて、今後、呉市の工場で浮体基礎を製作していく予定である。
- ・ 実証事業では、新しく開発した大型風車用セミサブ型浮体JADE（JAPAN MADEの略）が使われる予定である。
- ・ 洋上風力発電の浮体基礎は基礎部分だけで約5～6千トンの重さになる。
- ・ 浮体基礎の造成については、既存の工場内で行う予定であり、新たに工場を新設する意向はない。

【施設見学の概要について】

- ・ 呉事務所内には3つのドック（第二造船ドック、第三造船ドック、第四修理ドック）がある。
- ・ 工場内には300tクレーンが4つあり、主に造船で用いる部品の輸送などに使用されている。
- ・ 第三造船ドックは長さ約500mで、呉事務所における最大規模のドックとなっており、主に船の製造を行っている。第四修理ドックは船の修理に使用されている。
- ・ 第二造船ドックは長さ約340m、幅約65m、深さ約11mで、今後浮体式基礎の製造を行っていく予定となっている。
- ・ 現状、第二造船ドックでは広さが足りず、浮体式基礎をつなげることことができないため、いくつかのパーツに分けて、洋上でつなげていく予定とのこと。

6 所感

- ・戦艦「大和」建造時の歴史的ドックが現役で使用されているなど、技術の継承と設備の規模に感銘を受けた。
- ・工場内では、部品の組み立てから溶接、塗装、維持管理までの一貫体制が整っており、浮体式基礎の製造についても、将来的な国内での量産化に向けた優位性があると実感した。
- ・本工場は、大規模な敷地面積と港湾に隣接している土地であるという点からも、セミサブ型浮体の大型ブロックの建造や完成した浮体ブロックの輸送に適した立地であると感じた。



○意見交換会の様子
※工場内撮影禁止

洋上風力発電、データセンター関連事業者などとの協定等の締結について

1 DENZAI E&C株式会社との立地協定締結

(1) 概要：DENZAI E&C株式会社は、建設工事が本格化する秋田県沖洋上風力発電事業へ対応するため、風車建設やO&M拠点として、秋田湾産業拠点（A-BIZ）に秋田支店を開設予定であることから、秋田県と秋田市で誘致企業として認定し、立地協定を締結したものの。

(2) 締結日：令和7年10月14日（火）

(3) 出席者：DENZAI E&C株式会社 代表取締役社長 上村 浩貴 氏
秋田県知事 鈴木 健太
秋田市長 沼谷 純



2 FibreMax社との生産拠点誘致等に関する覚書締結

(1) 概要：浮体式洋上風力発電の係留等に使用するアラミド製ケーブルの製造事業者であるオランダのFibreMax社および国内代理店であるアイルエンジニアリング社等と、秋田県、秋田市が生産拠点誘致等に関する覚書を締結したものの。

(2) 締結日：令和7年10月15日（水）

(3) 出席者：FibreMax社 Director Renewable Energy

サンダー・フォン・ヘルヴァート 氏

秋田県知事 鈴木 健太
秋田市長 沼谷 純



3 株式会社日本総合研究所との連携協定締結

- (1) 概要：株式会社日本総合研究所が保有する、地方創生や地域脱炭素などの取組に関する知見やノウハウを活かしつつ、本市が進める再エネ関連産業の振興・集積の加速化を目指すため、「GX関連産業の振興・集積に向けた連携協定」を締結したもの。
- (2) 締結日：令和7年10月20日（月）
- (3) 出席者：・株式会社日本総合研究所 専務執行役員 木下 輝彦 氏
・秋田市長 沼谷 純



4 株式会社Bitgrit・株式会社エスツーとの連携協定締結式

- (1) 概要：市内でのAIデータセンター立地推進を検討している株式会社Bitgritと株式会社エスツーと本市の3者による「AIデータセンター都市構想」の実現に向けた連携協定を締結したもの。
- (2) 締結日：令和7年10月27日（月）
- (3) 出席者：株式会社Bitgrit CEO 向縄 嘉律哉 氏（米国法人代表）
株式会社エスツー 代表取締役最高経営責任者 須藤 晃平 氏
秋田市長 沼谷 純



○事業の目的

日本を代表する洋上風力発電総合イベント(Global Offshore Wind Summit-Japan2025)に合わせ、県と連携して洋上風力発電事業の市民向けPRやパネルディスカッション等を実施し、市内外への情報発信による本市関連産業の進行を図ることを目的とする。

パネルディスカッションの開催

「秋田市×石狩市×日本総研が目指す自治体間連携と今後の取組」

○日 時 2025年10月16日(木)11時～12時 ○場 所 にぎわい交流館Au多目的ホール

- ・進 行 日本総合研究所 部長／シニアマネージャー 大島 裕司 氏
- ・登壇者 石狩市役所企業連携推進課新産業創出担当課長 池内 直人 氏
秋田市役所新エネルギー産業推進室 藤原 守 氏
石狩市の企業代表者、あきた新エネルギーカレッジ参加の学生

「秋田市における洋上風力発電の現状と今後の展望」

○日 時 2025年10月16日(木)16時～17時 ○場 所 にぎわい交流館Au多目的ホール

- ・コーディネーター 秋田大学情報データ科学部教授 景山 陽一 氏
- ・パネリスト 秋田洋上風力発電代表取締役社長 井上 聡一 氏
男鹿・潟上・秋田Offshore Green Energy合同会社
地域共生マネージャー 丸川 聡志 氏
バスタス・ジャパン代表取締役社長 杉山 竜太郎 氏
秋田市役所新エネルギー産業推進担当部長 新出 康史 氏



ポスターセッションの開催

世界洋上風力サミットの開催期間中、にぎわい交流館Au 展示ホールに市の施策を紹介するブースを設置し、来場者や市民に対し、広くPRを図った。



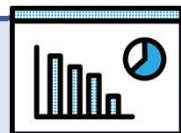
再生可能エネルギーを活用した 産業・観光振興セミナー

参加無料

主催：秋田中央地域再生可能エネルギー関連産業振興協議会
(会員) 秋田市、男鹿市、潟上市および3市商工団体



再生可能エネルギー関連産業への参入に
向けた情報をお届けします！



第一部

産業ツーリズムによる 交流人口の拡大（観光分野）

再エネを活用した観光ツアーの可能性やツーリズム実現による効果、実施に向けた課題抽出などの紹介を通して地元企業の参入可能性を探ります！

講師

- ・株式会社JTB秋田支店
- ・株式会社阪急交通社
- ・男鹿・潟上・秋田Offshore Green Energy合同会社

第二部

市内事業者の洋上風力発電 関連事業への参入（産業分野）

地元企業の参入可能性分野の提案や、実際に発注された業務内容の紹介などをおし、地元企業の参入可能性を探ります！

講師

- ・男鹿・潟上・秋田Offshore Green Energy合同会社
- ・秋田洋上風力発電株式会社
- ・株式会社秋田銀行
- ・株式会社北都銀行

日時

2025年11月5日(水)

開催時間

第一部 10:00～11:10(受付: 9:30～)

第二部 14:00～15:30(受付: 13:30～)

開催場所

パーティーギャラリーイヤタカ
(秋田市中通六丁目1-13)

申し込み

右記の二次元コードよりお申込ください
【お申込期日10月22日(水)17:00締切】



セミナーに関する
お問い合わせ

秋田市役所
新エネルギー産業推進室

☎ 018-888-5743
✉ ro-inne@city.akita.lg.jp

「GX戦略地域」への応募について

1 要 旨

国では、「GX2040ビジョン」に基づくGX産業立地※の具体化に向け、「GX戦略地域」制度を創設し、自治体および民間事業者による提案募集を開始したことから、本市としても県と連携してGX戦略地域へ応募するもの。

※GX産業立地：脱炭素エネルギーの供給地点に電力多消費型産業等の立地を誘導し、効率的・効果的な産業立地を進めていく考え方

2 「GX戦略地域」提案募集について

(1) 提案募集の概要

内閣官房主導による「GX産業立地ワーキンググループ（WG）」において、脱炭素電源を有する地域へのGX産業誘導の類型として次の3パターンが示され、関連産業の集積を目指す地域を募集することとなった。

①コンビナート等再生型の例 (GX新事業創出)	②データセンター集積型の例	③脱炭素電源活用型の例 (GX産業団地等)
- GX分野のスタートアップ等が生産拡大できる拠点が必要 - 例えば、インフラが揃っているコンビナート跡地の活用が有効	DC需要が急増する中、電力系統・通信インフラを効率的に活用する必要	産業競争力の強化に向けて、サプライチェーンの脱炭素化が必要
 宇部市：28年3月にアンモニア生産終了	 ブラジル：世界最大級のDC集積地を構想（約3GW）	 鳥栖市：100%再エネ提供をする団地造成（2030年頃完了予定）
⇒地域を指定/コンビナート再生等による拠点整備	⇒地域を指定し、DCを集積。先行的にインフラ整備	⇒脱炭素電力の活用を促進

出典：第4回GX産業構造実現のためのGX産業立地ワーキンググループ資料
(令和7年8月5日 内閣官房GX実行推進室)

(2) 提案募集の趣旨

今回の募集は各地における事例の基礎調査という趣旨であり、調査結果を踏まえて年度内に正式な公募が行われる見通し。

(3) 募集期間

令和7年8月26日(火)から同年10月27日(月)まで

(4) GX戦略地域の指定によるメリット

地方自治体や事業者が行う設備投資などのGX関連投資に対し、20兆円規模のGX経済移行債を活用した支援の方針が政府から示されている。(具体的な支援内容は現在、国が検討中)

3 県および本市の対応

- ・国では、今回の提案は都道府県単位での応募を想定している。
- ・県では、下新城工業団地と市の北部工業団地が類型の②および③に該当するものとして応募したいとの考えであり、本市もこれに協力することとし、県と連名にて応募する予定。

事業概要

会場内に講演ステージと企業ブースを設置し、参加者の関連事業への理解を促進するとともに、事業者における人材の確保を促進する。

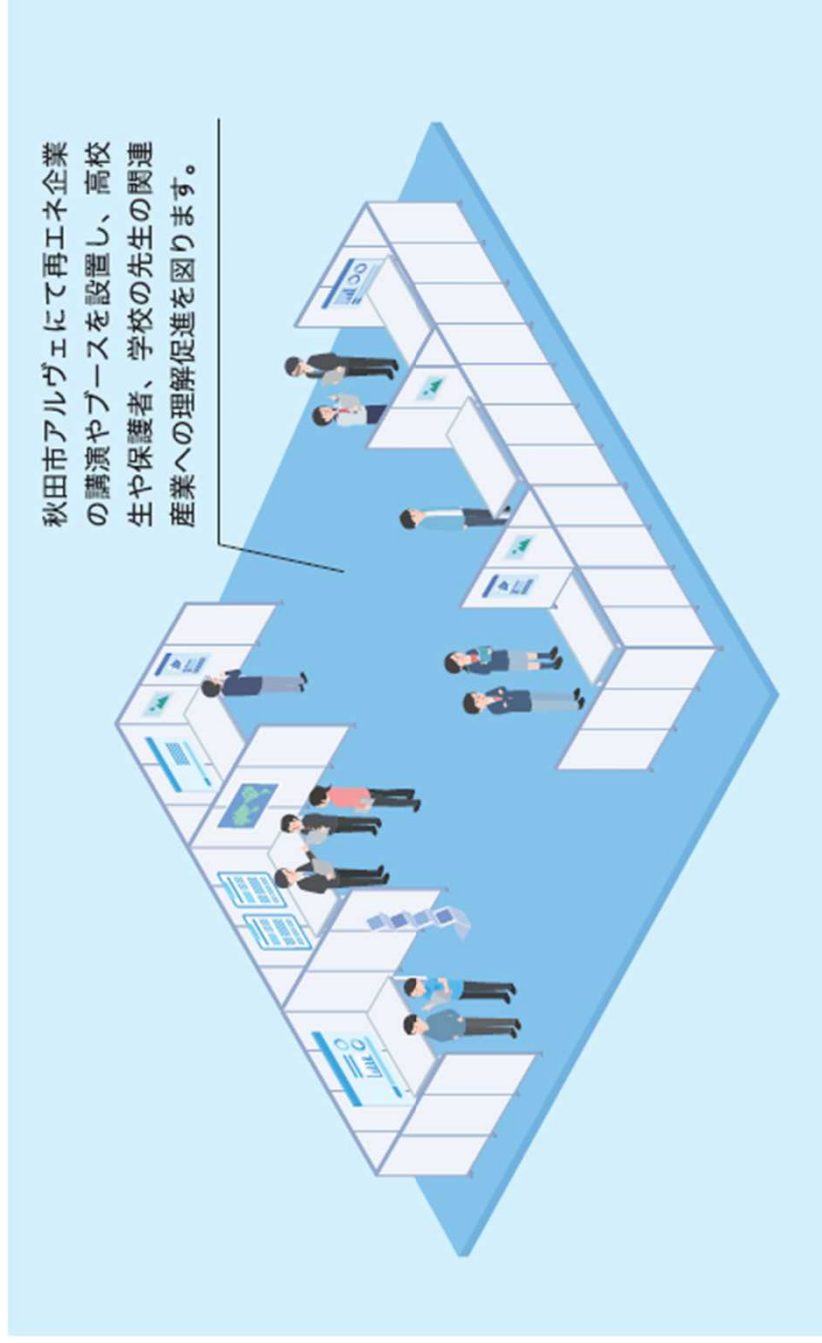
○開催日 令和7年12月7日(日)から8日(月)まで

○会場 秋田拠点センターALVE 1F きらめき広場

○内容 企業ブース出展および企業による講演・PR

○対象者 市内・周辺市の高校生、教員、保護者

○参加企業 市内の再エネ発電事業者、メンテナンス事業者、関連部品の製造事業者等



【(参考)高卒就職フェアの様子】